

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成19年5月10日(2007.5.10)

【公開番号】特開2006-180337(P2006-180337A)

【公開日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【年通号数】公開・登録公報2006-026

【出願番号】特願2004-373177(P2004-373177)

【国際特許分類】

H 01 P 5/02 (2006.01)

H 01 P 1/04 (2006.01)

H 01 P 3/16 (2006.01)

【F I】

H 01 P 5/02 607

H 01 P 5/02 603A

H 01 P 5/02 603L

H 01 P 1/04

H 01 P 3/16

【手続補正書】

【提出日】平成19年3月14日(2007.3.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1および第2の伝送線路の間に接続部を介して第3の伝送線路が接続されており、前記第3の伝送線路は、線路長を、前記第1の伝送線路から前記第3の伝送線路の入力端へ入力される高周波信号のうち、前記第3の伝送線路の前記入力端側の前記接続部で反射して前記第1の伝送線路に漏洩する一部の高周波信号をW a、前記第3の伝送線路の出力端側の前記接続部で反射して前記W aと同じく前記第1の伝送線路に漏洩する他の一部の高周波信号をW bとし、これらW aとW bとの中心周波数における位相差を±としたときに、
= ±となるように設定したことを特徴とする高周波用伝送線路。

【請求項2】

前記接続部の少なくとも1つは、前記高周波信号の波長の4分の1よりも長さが短いワイヤボンドであることを特徴とする請求項1記載の高周波用伝送線路。

【請求項3】

高周波信号を発生する高周波発振器と、該高周波発振器に第1の高周波伝送線路で接続された、前記高周波信号を分岐して一方の出力端に送信用高周波信号として出力し、他方の出力端にローカル信号として出力する分岐器と、磁性体の周囲に第1の端子、第2の端子および第3の端子を有し、この順に一つの端子から入力された高周波信号を隣接する次の端子より出力する、前記分岐器の前記一方の出力端に前記第1の端子が第2の高周波伝送線路で接続されたサーチュレータと、該サーチュレータの前記第2の端子に第3の高周波伝送線路で接続された送受信アンテナと、前記分岐器の前記他方の出力端と前記サーチュレータの前記第3の端子との間に第4の高周波伝送線路で接続された、前記他方の出力端に出力された前記ローカル信号と前記送受信アンテナで受信した高周波信号とを混合して中間周波信号を出力するミキサーとを具備しており、前記第1乃至第4の高周波伝送線路の少なくとも1つは請求項1または請求項2に記載の高周波用伝送線路であることを特徴

とする高周波送受信器。

【請求項4】

高周波信号を発生する高周波発振器と、該高周波発振器に第1の高周波伝送線路で接続された、前記高周波信号を分岐して一方の出力端に送信用高周波信号として出力し、他方の出力端にローカル信号として出力する分岐器と、該分岐器の前記一方の出力端に入力端が第2の高周波伝送線路で接続された、出力端側に前記送信用高周波信号を出力するアイソレータと、該アイソレータの前記出力端に第3の高周波伝送線路で接続された、前記送信用高周波信号を送信する送信アンテナと、前記分岐器の前記他方の出力端側に第4の高周波伝送線路で接続された受信アンテナと、該受信アンテナと前記分岐器の前記他方の出力端との間に第5の高周波伝送線路で接続された、前記他方の出力端に出力されたローカル信号と前記受信アンテナで受信した高周波信号とを混合して中間周波信号を出力するミキサーとを具備しており、前記第1乃至第5の高周波伝送線路の少なくとも1つは請求項1または請求項2に記載の高周波用伝送線路であることを特徴とする高周波送受信器。

【請求項5】

請求項3または請求項4記載の高周波送受信器と、該高周波送受信器から出力される前記中間周波信号を処理して探知対象物までの距離情報を検出する距離情報検出器とを具備することを特徴とするレーダ装置。